

第8号

市小公連だより

筑紫野市小地区公民館連絡協議会

■発行元 筑紫野市小公連事務局 ■☎818-0057 福岡県筑紫野市二日市南 1-9-3
 ■発行責任者 会長 森田 陽子 生涯学習センター内 ☎092-918-3535



【役員のことば】 山家地区
山家8区館長



副会長
藤井 信義

市小公連役員・理事の皆様には、日頃より御協力を頂き、心よりお礼申し上げます。

九月五日の市小公連推進大会は、八十七館の皆様が郷土を愛され又、文化の継承をしっかりと行なわれている事が発表され感銘を受けたところです。

「公民館の役割」は世帯数に変わりがなく、そこで生活をする人達の集う場所寄り添う所ではなくてはならないと思います。少子高齢化、空家の増加と地域の絆が希薄になっていく中、公民館活動に関心をもって頂けるように旧来の事業と新しいものを取り入れた活動の必要性を感じています。

今後も、研修会や事業に出来るかぎり参加し、そこで学んで来たことを皆様の御指導と御協力を頂きながら少しでも地域に反映し、公民館活動の向上に努めて参りたいと思います。

市小公連の活動報告

福岡県公民館大会

岡垣サンリーアイウエブアリーナ
第60回大会テーマ

8月4日

「地域に活力を生み出す公民館の役割」

講演：佐々木英和准教授（宇都宮大学）今までにない参加型の講演でした。

■聴いているフリをするコミュニケーション

■「伝える」⇔「伝える」⇔「心」の声を聴く

■「伝える」⇔「伝える」⇔「心」の声を聴く

■「伝える」⇔「伝える」⇔「心」の声を聴く

■「伝える」⇔「伝える」⇔「心」の声を聴く

■「伝える」⇔「伝える」⇔「心」の声を聴く

■「伝える」⇔「伝える」⇔「心」の声を聴く

■「伝える」⇔「伝える」⇔「心」の声を聴く

■「伝える」⇔「伝える」⇔「心」の声を聴く

■「伝える」⇔「伝える」⇔「心」の声を聴く

■「伝える」⇔「伝える」⇔「心」の声を聴く

■「伝える」⇔「伝える」⇔「心」の声を聴く

■「伝える」⇔「伝える」⇔「心」の声を聴く

■「伝える」⇔「伝える」⇔「心」の声を聴く

■「伝える」⇔「伝える」⇔「心」の声を聴く

■「伝える」⇔「伝える」⇔「心」の声を聴く

■「伝える」⇔「伝える」⇔「心」の声を聴く

■「伝える」⇔「伝える」⇔「心」の声を聴く

椎葉真弓

(本町館長)



九州地区公民館研究大会

長崎大会(長崎ブリックホールその他)

8月27~28日

I 分科会 高齢化社会への対応：お年寄り、独居老人の外出を促すため若い人たちと交流できるようないろいろな企画には感心しました。『できるだけ他人に迷惑をかけない生き方』を目標にしてはどうだろうかと感じました。II アトラクション 小浜中マーチングの演奏演技：舞台での姿は実に堂々としてその演技に感動しました。部訓として『笑顔』『あなたが私にも必要』『みんな幸せ』すばらしい笑顔から元気をいっぱいいただきました。

III 記念講演 高田 明様 元ジャパネットたかた社長『夢持ち続け、日々精進』
 企業活動、公民館活動その他諸々の
 社会活動の最終目標は何か？



『人間が人として、幸せに安心して生活できること』その為には各人が自分の思いを多くの人に伝えていくことが大切。常に相手の気持ちになり心を伝えなければ伝わらない。伝えることの難しさを痛感しました。中村良三(若葉中原主事)



市小公連平成27年度推進大会

「まちづくりは公民館から！」

さんあいホール

～第41回テーマ「まちづくりの視点を持った公民館活動の活性化」～・9月5日

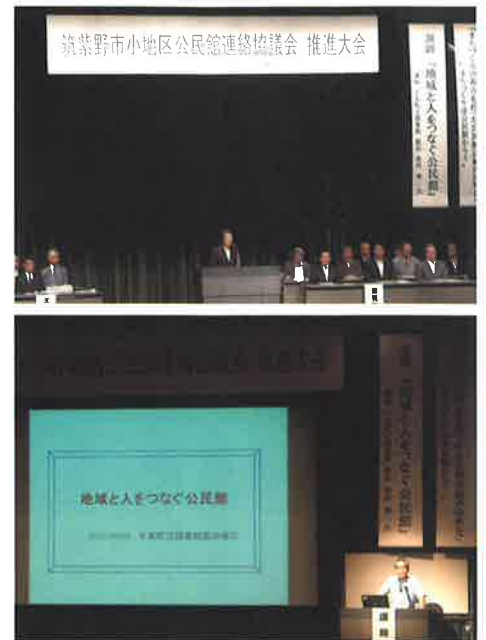
研修会は、黒田修三氏(宇美町立図書館長)の講演「地域と人をつなぐ公民館」と、若葉・中原公民館(山口)、西吉木公民館(御笠)、原田公民館(筑紫)の発表の後、黒田氏のコーディネートによる三発表者による「討議・まとめ」が行われました。<アンビシャス広場の活動>と<公民館寺子屋の開設>(若葉・中原)、<高良神社の祇園前夜祭、盆踊>と<ホンゲンギョウ>など地域の伝統行事(西吉木)、<「ホテルの里」づくり>(原田)と各報告の取り上げた行事・催事はそれぞれですが、3報告は期せずして子どもの育成に焦点を当てた活動報告であり、公民館活動活性化の鍵がどこにあるかを示すことになったと思います。このことは、ホワイエでの各公民館の展示にも見ることができました。

「まとめ」の議論では、各小地区公民館が対象とする地域の性格や規模の違いは大きく、同じ筑紫野市の小地区公民館と云っても、それぞれに抱える問題が異なり、直面する困難の有り様もさまざまであることが浮彫になりました。その実情の違いが各々の運営活動の個性となって表れていることが理解できました。

真に生涯学習の拠点、まちづくりの拠点としての公民館であるためには、それぞれが足元の実情を正しく捉え、地域に根差した活動を行うことの重要性が、参加者に再認識されたのではないかと思います。

「まちづくりは公民館から！」というのが掛け声倒れにならないように、大会宣言のとおり継続的かつ積極的な活動をめざして努力して行きたいと思います。

菊池高志(宮の森館長)



【大会宣言】

1. 人材育成、公民館の相互交流等を通じて公民館の活性化を図ります。
2. 家庭・学校・地域そして関係機関・団体との連携を図ります。
3. 情報の発信と共有化を推進します。
4. 災害への対応として防災意識の向上と自主防災力を高めていきます。



平成27年度 夏祭り



旭東公民館



東新町公民館

二日市地区



東吉木公民館

御笠地区



みかさ台公民館



朝倉街道団地公民館

山口地区



針摺公民館



山家地区
公民館



光が丘公民館



筑紫地区

原田公民館



公民館の活動紹介

近くの山家川支流では、ホタルの里づくりで、毎年シーズンの5月末から6月初めまでゲンジボタルの乱舞が見られます。公民館は国道200号冷水有料道路と交差する手前左側に存在する。かなり老朽化し、裏山の崩壊危機もあり、現在候補地を選定し、建て替えを検討中です。公民館の主な用途は、スポーツフェスタ、夏祭り、敬老会、体育祭、文化祭などの地区行事の打ち合わせ、終了後の楽しい打ち上げ、いきいきサロン、農事組合などの集会に利用されています。産廃問題への対応など環境保全で課題を抱えています。山紫水明の里の名に恥じない、公民館活動拠点として公民館は重要な役割を果たしています。

山家地区道路交通の要

大根地山に源を發する山家川の清流沿いに拡がる山家三区。世帯数百二十一、今年5月には県道筑紫野―三輪線(県道77号)の開通があり、200号線との交差点では、画期的に交通量が増えています。賑やかになった反面、安全面の確保が指摘されており今後の課題となっています。

市小地区公民館館長・主事等研修会

演題「地域で、ともに!」

人権問題啓発実行委員会「機関・団体」の研修を兼ねて

社会福祉法人 はーと&はーと 理事長 寺崎 和憲氏

二十歳から五十三歳までの知的障害者二十六名が通ってきています。障害者の社会的自立を目指して、豆腐の製造販売や携帯電話のリサイクル等による収益確保及びクラブ活動や社会体験を通じて、障害者を分離するのではなく、**共生する社会自立と社会参加**を積極的に推進していくことを目指しているそうです。障害者の本当の気持ちは、健常者が障害者になった時にしか真の気持ちは分からないので、周りの人たちが、そつと見守ることも大切であり、障害者の社会的障壁になっている偏見等を健常者が取り除き、支援してやる**ことが大切**であると力説されていました。寺崎理事長の話聞いて、ふと自分を振り返り見ると、障害者の人達に接するということだけではなく自分が気付かないところをたくさん人の心を傷つけていることを認識させられました。最近テレビ等で、多くの報道がなされている介護福祉施設の**いじめ問題**。「年寄り」だから、「痴呆症」だから、「障害者」だからどこかで人の人権を無視してはいないだろうか。他人ごとではない。私はこれからは「こころや高齢者にお会いしたならばは「こころにちは」のあいさつから声をかけていきたい」と思います。三宅俊明(常松館長)

10月21日

編集後記



「針摺石の由来」

菅公が、天拝山頂で、身の潔白を訴えられた帰りに、老人が斧を一心に摺っている。

『何をするのだ』と問うと、『針にするのです』と答えた。強く心を打たれ、何事にも不断の努力がなければ成就しないものだ。と再び天拝山に引き返し天に向かつて訴えを続けられたと伝えられている。

中村良三

(若葉中原主事)

生涯学習センターにて